

## 心理学研究室報

### 令和2年度 専修大学人間科学部心理学科 大学院文学研究科心理学専攻

#### I. 専修大学心理学研究室

##### 人間科学部心理学科報告（大久保街亜学科長）

令和2年度は新型コロナウイルス感染症への対応で、上へ下への大騒ぎでした。まず、4月6日に両国国技館で行われる予定だった入学式が中止になりました。その次の日、4月7日から5月6日の1ヶ月を期間として、改正新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言が政府から発出されました。不要不急の外出、都道府県をまたぐ移動について強い自粛勧告がなされ、「3つの密（密接、密集、密閉）」を避けることが繰り返しメディアや自治体、政府からアナウンスされました。飲食店やさまざまな施設も休業となりました。街から人がいなくなり、電車はがらがら、多くの人が自宅に籠って過ごしました。当然ながら専修大学においても、オリエンテーションガイダンスなど年度始めの行事はすべて中止、授業の開始も延期されることになりました。緊急事態宣言が解除されたのは、結果として、5月25日でした。

専修大学では、教育を止めないため、5月11日からすべての授業をオンライン形式で行うことになりました。教員も学生も職員も全く経験したことのないオンライン授業です。学生は友人と机を並べられないことに不満と不安を覚え、教員は慣れない動画作成や配信、オンラインでのテストの準備に追われました。心理学科でも同様に教員も学生も慣れないオンライン授業にてんでこまいでした。

今年入学したばかりの1年生にとっては、キャンパスに立ち入ることもないまま授業が開始されることとなりました。心理学科では、すこしでも何か新入生のためにできることはないかと考え、zoomを使ったオンライン形式での新入生クラス会を授業開始前に2回実施しました。新入生がまだ使い始めてもないメールアドレスにきた連絡を読んでくれるのか、機器の操作に慣れず参加を諦めてしまうのではないかと、いろいろ心配はありました。小杉先生とふたりっきりだったらどうしようなどというこちらの心配をよそに、5月1日には約40名、5月8日には約30名が参加してくれました。クラス会では、フレッシュマンキャンプの実行委員や教員も加わり、小グループを作って1時間ほど話をしました。最初はぎこちなかった1年生も、自己紹介をしたり、授業や実験の話をしたりするうちに徐々に打ち解け、心理学科で学ぶことについて、少しは実感を得てくれたようでした。

感染状況が落ち着いてきた6月29日から実験、実習の授業の一部を、後期からは実験、実習、演習の授業を対面形式で行うことがなんとかできるようになりました。この原稿を執筆している11月末の段階では、すべての学生が週1回か2回登校する状態になっています。制限付きではありますが、卒

業論文のための実験を対面でも行うことができるようになりました。とはいえ「新しい日常」のなかで、心理学教育を止めないために、四苦八苦しているのが現状です。

このてんやわんやの令和2年度ですが、心理学科に特任教授として高澤知子先生をお迎えすることとなりました。公認心理師資格関連科目である心理実習など、臨床系の実習を担当していただいています。教員だけでなく、学生も入れ替わっています。本年度の新入生は、人間科学部心理学科に1年次に73名、2年次編入に2名、大学院文学研究科心理学専攻修士課程に9名、博士後期課程に3名でした。彼らが新しい風を心理学科、そして心理学専攻に送り込んでくれました。博士後期課程に3名の入学者があったことは、専修大学の心理学教育が研究者、専門家の育成にも力を注いでいる現状を反映したものでしょう。現在の学生数は、学部で1年次79名、2年次74名、3年次70名、4年次67名、5年次以上8名の計298名です。一方、大学院には修士課程1年次8名、2年次9名、3年次1名、博士後期課程1年次1名、2年次3名、3年次2名、4年次1名と25名が在籍しています。学部生と大学院生を合わせると323名の大所帯です。この大所帯を教員14名、実習助手2名の16名の体制で運営・教育を行っています。

#### 文学研究科心理学専攻報告（吉田弘道文学研究科委員心理学専攻主幹）

専修大学大学院文学研究科心理学専攻は修士課程と博士後期課程からなり、心理学領域における研究者や、公認心理師、臨床心理士など心理臨床における実践家の養成を行っています。令和2年度の本専攻における大学院生の人員構成は、修士課程1年次8名、2年次以上10名、博士後期課程1年次1名、2年次3名、3年次以上3名、研究生1名が在籍し、総勢で26名となりました。これらの26名は、研究や心理臨床のトレーニングに没頭する1年間を過ごしました。今年度は公認心理師の資格がスタートして3年目であり、修士1年生2年生の実習も充実した内容で行われています。ただ、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、学内への入構制限があり、そのため研究が思うように進まなかった院生もいたと思います。実習についても、実習の開始が遅れたり、あるいは、実習そのものができなくなったりした学外施設もありました。このような状況の中、限られた時間を使って、積極的に研究を進めています。また実習についても、新たな実習施設を開拓して、充実した実習が行われています。心理学専攻ではこれら大学院生を全力でサポートするべく、充実した教育をおこなっています。

#### II. 心理学教員研究室報告

##### 池田研究室（発達心理学）

本研究室では、広く、ヒトの発達に関する研究を行っています。2020年度は教員1名と学部生11名（4年生：6名、3年生：5名）の体制です。4年生の卒論テーマは、幼児を対象とした実験では、実行機能や自己調整に関するトピックが人気です。ほかにも、大学生を対象とした乳児の泣き声聴取

と虐待傾向の関係や、お世辞伝達における透明性錯覚の検討などさまざまです。3年生も、プレ卒に向けて研究テーマが定まってきつつあります。前期のゼミはすべてオンラインでしたが、対面時よりも緊張せずに済むのか、活発な質疑応答が行われていた印象です。

夏休み中には、生田キャンパスで卒論の進捗報告やプレ卒の計画の発表を行いました。ほとんどの学生が今年度初の大学への入構であり、対面での今年度のゼミ生初顔合わせを楽しんでいました。秋から卒論のデータ収集が佳境を迎えますが、オンライン実験で無事にデータを集め切ることができるよう、切に願うところです。

#### 諸活動

Hirai, M., Kanakogi, Y., & Ikeda, A. (2020). Observing inefficient action can induce visual preferences in 4-month-old infants. (Budapest CEU Conference on Cognition Development (BCCCD20), Budapest, Hungary, January 9, 2020)

Hakuno, Y., Naoi, N., Ikeda, A., Asada, K., Minagawa, Y., Ikeda, T., Yamagata, T., & Hirai, M. (2020). Social attention during real-life interactions in Williams syndrome and autism spectrum disorder. (Budapest CEU Conference on Cognition Development (BCCCD20), Budapest, Hungary, January 10, 2020)

池田彩夏・白野陽子・浅田晃佑・池田尚広・山形崇倫・平井真洋 (2020). 言語レジスター理解の発達メカニズムの検討. HCS2020年1月研究会 (J:COM ホルトホール大分, 2020.1.26)

白野陽子・直井 望・池田彩夏・浅田晃佑・皆川泰代・池田尚広・山形崇倫・平井真洋 (2020). 自閉症スペクトラム障害児を対象とした社会的相互作用中のライブ視線反応計測. HCS2020年1月研究会 (J:COM ホルトホール大分, 2020.1.26)

#### 社会的活動

日本発達心理学会 ニュースレター委員

#### 石金研究室 (生理心理学・認知脳科学)

私たちの研究室では、心理学で扱うさまざまなトピックについて、脳活動やニューロンの活動からその処理過程を明らかにする研究を行っています。令和2年度の人員構成は、教員1名、研究員1名、学部生13名でした。情報処理中の人間の脳活動を脳波やNIRS（近赤外線光を用いた脳計測）により測定する研究と、動物を使用して電気生理学実験と行動実験を組み合わせて用いることで、視覚システムや行動の神経基盤を調べる研究を行っています。脳活動を測定する研究では、人間が何かを見たり注意を向けたりした時に活動する脳の領域とその特性を調べています。また、視覚システムや行動の神経基盤を調べる研究では、視覚誘発性行動と神経活動との関連から、視知覚成立の基礎となるメカニズムを解明することを目指しています。今年の卒業論文研究で

は、動物を用いた初期視覚系のニューロンから活動電位を記録し、受容野の特性を逆相関法により解析するや、概日リズムに関与するニューロンの研究が行われました。コロナ禍のため、ゼミ合宿などは出来ませんでしたが、オンラインでのディスカッションを組み合わせると十分な研究活動が出来ました。

#### 諸活動

##### 論文

石金浩史 (2020). 視覚誘発性の逃避行動におけるプライミング効果. 専修人間科学論集心理学篇, 10 (1), 1-5.

#### 学会発表

Ishikane, H. (2020). The priming effect on visually elicited escape behavior and related activities in retinal ganglion cells. The 43rd Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society, Kobe, Japan.

#### 社会的活動

日本基礎心理学会 常務理事

公益社団法人 日本心理学会 代議員

#### 大久保研究室 (認知心理学)

私たちの研究室では、心の情報処理を研究しています。令和2年度の人員構成は、教員1名、博士研究員2名、大学院生2名（博士後期課程1名、修士課程1名）、学部学生7名でした。今年度はコロナにはじまり、コロナに終わろうとしています。認知心理学は、ヒトの知的側面を情報処理の視点から調べる実験心理学なのですが、感染症対策のため10月まで実験をすることがほとんどできませんでした。認知心理学の研究室としては、商売上がったりです。ほんとにヒドイ1年でした。

それでも卒論生たちは、全員なんとかデータを取り、原稿執筆時（11月末）には卒業論文の執筆を鋭意進めています。博士研究員や大学院生も同様です。この状況の中でのことを進める心意気にただただ頭が下がる思いです。

#### 研究活動

Øvervoll, M., Schettino, I., Suzuki, H., Okubo, M., & Laeng, B. (2020). Filtered beauty in Oslo and Tokyo: A spatial frequency analysis of facial attractiveness, *PLOS ONE*, 13 (8) e0201603.

中嶋智史・請園正敏・須藤竜之介・布井雅人・北神慎司・大久保街亜・鳥山理恵・森本裕子・高野裕治 (2020). 日本語版20項目相貌失認尺度の開発および信頼性・妥当性の検討. 心理学研究, 90, 474-481.

大久保街亜 (2019). 「コンピュータ&エデュケーション」と帰無仮説検定：統計手法の改革は進んでいるか？ コンピュータ&エデュケーション, 47 (1), 12-17.

大久保街亜 (2020). 左の顔と右の顔：悪い奴は左頬で笑う. 心理学ワールド, 89, 9-12.

大久保街亜 (2020). 基礎から臨床まで：心理学基礎実験で土台を築く. 心理学ワールド, 90, 23-24.

大久保街亜 (2020). 魅力を科学する. 育友, 162, 36-37.

#### 賞罰

日本心理学会学術学会特別優秀発表賞（鈴木敦命, 江見美果, 石川健太, 小林晃洋, 大久保街亜, 中井敏晴「顔で人柄がわかると信じる人の顔特性推論は実際に正確か」）

#### 岡村研究室（リハビリテーション心理学）

研究室で取り組んでいる研究の対象は、小児から成人までリハビリテーションの対象となる障害を抱える人々です。さまざまな障害に対して心理的な構造を明らかにして、どんなアプローチができるのかについて研究しています。研究室には修士2年2名、修士1年1名、学部4年5名、学部3年5名です。それぞれ自分のテーマを見つけて研究に取り組んでいます。今年度はコロナ禍で、学部生も大学院生も、それぞれ論文に取り組むのにも苦戦しましたが、よく頑張ったと思います。体験の中から本当に必要なこと、興味の持てることをテーマに研究をすることを掲げている研究室なのですが、今期はなかなか体験ができませんでした。オンラインでも体験できること、体験しなくても伝えていくことを考えていかなければいけないと思っています。

私自身の専門は、臨床神経心理学で、なかでも脳損傷に起因する高次脳機能障害者に対する神経心理学的アセスメント、認知リハビリテーションが研究対象です。遂行機能障害の評価や高次脳機能障害のグループ訓練の効果測定などが現在継続中の研究です。また、臨床神経心理士という資格についても研究しています。臨床神経心理士という資格が、神経心理学会、高次脳機能障害学会主催で立ち上がることになり、今後心理職としてどうアイデンティティをもつのかを検討したいと思っています。

専修大学心理教育相談室において、高次脳機能障害者の心理相談および認知訓練教室を実施していましたが、こちらも中断中です。来年は、ぜひとも、臨床活動に今後研究室全体で取り組めることを願っています。

#### 諸活動

リハビリテーション心理職会運営委員

川崎市高次脳機能障害のある子どもの家族の会“エルダーフラワー”顧問

#### 加藤研究室（心理査定学）

加藤研究室では、心理査定学（臨床心理アセスメント）を学んでおり、特に心理検査法を学んでいます。具体的には、いくつかの主要な心理検査を実際に体験しながら学び、それを通して「臨床心理学的なものの見方・考え方の基礎」を身につけることを目指しています。その際、主に精神分析的な観点から心の働きの理解することを実践しています。

主な研究テーマは若手心理臨床家への臨床心理アセスメントやロールシャッハ・テストに関する初期教育法の検討であ

り、若手心理臨床家への教育実践と研究を並行しておこなっています。特に、ベテランの心理臨床家の「立体的」「同時並行的」な思考過程を、若手や初学者にも分かりやすいように「平面展開図的」「継時段階的」に整理することを目指しています。

令和2年度の人員構成は、教員1名、大学院修士課程3名、学部生7名（4年生2名、3年生5名）でした。大学院生および学部生は、上記の学びをもとに思い思いのテーマを見つけて研究を進めています。

#### 諸活動

加藤佑昌 (2020). 一人の心理士が検査者と面接者を兼ねる治療構造に関する一考察 専修人間科学論集心理学篇, 10, 35-42.

加藤佑昌 (2020). 若手の会企画：若手の心理臨床懇話会「今、若手が10年後を思い描く」企画者・指定討論者 日本心理臨床学会第39回大会 Web 大会 2020年11月20日-26日

#### 社会的活動

日本心理臨床学会 若手の会 幹事

多摩精神分析セミナー 事務局・講師

#### 国里研究室（臨床心理学）

私たちの研究室は、不安や抑うつ発症・維持メカニズムや認知行動療法的作用メカニズムについて、行動実験や計算論的アプローチを用いて明らかにすることを目的としています。2020年度の人員構成は、教員1名、ポスドク1名、大学院生3名（修士1年：1名、修士2年：1名、博士後期4年：1名）、学部生7名（3年：3名、4年：4名）でした。

2019年度は国里がオランダのアムステルダムで在外研究をしていましたので、2020年度は再出発の年になりました。といっても、4年生は2019年度に帝京大学の飯島雄大先生のもとで研究指導を受けていたので、その経験を基にして、研究を発展させることになりました。ただ、今年はCOVID-19の感染拡大によって、オンラインでのゼミとなったり、データ収集は必須としない二次分析研究にしばって進めることになったりと例年にないゼミになりました。4年生は、メタ分析や既存データへの心理学的ネットワーク分析の適用など、新規なデータ収集に依存しない心理学研究をしっかりとすすめています。3年生は、各自の関心に合わせて、徐々に研究テーマがしぼられてきました。

大学院生は、臨床心理学に関する専門的知識を学ぶとともに、修士・博士論文の研究を行っています。例年は、全員が日本認知・行動療法学会においてポスター発表を行います。が、今年は新型コロナの感染拡大により開催の見通しが立たなかったため、断念しました。次年度以降は、大学院生の研究発表もできるようになれると思います。

今年度は、新型コロナのためにゼミ合宿はできなかったため、夏休み中に1日ゼミを行いました。前期は、演習を全体で行って、研究指導は個別面談（もしくはグループ面談）で行う方式をとっていたので、ゼミ生が各自の行っている研究

を確認する良い機会となりました。本研究室は、今年で8年目となります。2019年度の在外研究を経て、再現可能性と計算論的アプローチの2つの軸が研究室のなかでできてきました。今後は、この2つの方向性でさらに研究を深めていけたらと思います。

#### 諸活動

(2019年度は在外研究しておりましたので、2019-2020年の活動を報告いたします)

#### 書籍

- 国里愛彦 (2020). 第1章「動機づけ」『公認心理師の基礎と実践9:感情・人格心理学』pp.31-41. 遠見書房
- 宗田卓史・国里愛彦・片平健太郎・沖村 幸・山下祐一 (2019). 計算神経科学と精神医学:情報の観点から精神疾患を見る『Power Mook 精神医学の基盤』Vol 4 No1, pp.107-117. 学樹書院
- 柚取恵太・国里愛彦 (2019). 「診断ガイドライン」, 「アウトカムの重要性」『認知行動療法事典』丸善出版
- 国里愛彦 (2019). 「有害事象」, 「再現可能性」『認知行動療法事典』丸善出版
- 国里愛彦・片平健太郎・沖村 幸・山下祐一 (2019). 『計算論的精神医学:情報処理過程から読み解く精神障害』勁草書房
- 国里愛彦 (2019). 第3章「レスポナント学習の理論モデル (pp.275-279)」, 「レスポナント学習の理論に基づくケースフォーミュレーション (pp.280-284)」下山晴彦・伊藤絵美・黒田美保・鈴木伸一・松田 修 (編)『公認心理師技法ガイド:臨床の場で役立つ実践のすべて』文光堂

#### 論文

- Katahira, K., Kunisato, Y., Okimura, T., & Yamashita, Y. (2020) Retrospective surprise: A computational component for active inference. *Journal of Mathematical Psychology*, 96, 102347.
- Katahira, K., Kunisato, Y., Yamashita, Y., & Suzuki, S. (2020) Commentary: "A robust data-driven approach identifies four personality types across four large data sets". *Frontiers in Big Data*, 3 (8).
- Nishiguchi, Y., Sakamoto, J., Kunisato, Y., & Takano, K. (2019) Linear Ballistic Accumulator Modeling of Attentional Bias Modification Revealed Disturbed Evidence Accumulation of Negative Information by Explicit Instruction. *Frontiers in Psychology*, 10, 2447.
- Yokomitsu, K., Sakai, T., Irie, T., Tayama, J., Furukawa, H., Himachi, M., Kanazawa, J., Koda, M., Kunisato, Y., Matsuo, H., Takada, T., Takahashi, F., Takahashi, T., & Osawa, K. (2019). Gambling symptoms, behaviors, and cognitive distortions in Japanese university students. *Substance Abuse Treatment, Prevention, and Policy*, 14, 51.
- Hasegawa, A., Somatori, K., Nishimura, H., Hattori, Y., &

Kunisato, Y. (2019). Associations between self-reported impulsivity and a latent variable of impulsive action constructed from three laboratory tasks. *Journal of Experimental Psychopathology*, 10, 3.

下野有紀・長谷川晃・土原浩平・国里愛彦 (2020). 大学生用ひきこもり親和性尺度の作成 感情心理学研究, 27 (2), 51-60.

畑琴音・小野はるか・小川祐子・竹下若那・国里愛彦・鈴木伸一 (2019). がん患者用活動抑制尺度 (SIP-C) の作成と信頼性・妥当性の検討 総合病院精神医学, 31 (4), 422-429.

柚取恵太・国里愛彦 (2019). アンヘドニア (anhedonia) と遅延割引: Lempert & Pizzagalli (2010) の追試 心理学評論, 62 (3), 231-243.

国里愛彦・片平健太郎・沖村 幸・山下祐一 (2019). うつに対する計算論的アプローチ: 強化学習モデルの観点から心理学評論, 62 (1), 88-103.

佐藤秀樹・国里愛彦・小関俊祐・鈴木伸一 (2019). Rumination about an Interpersonal Offense Scale (RIO) 日本語版の作成と信頼性・妥当性の検討 認知療法研究, 12 (2), 111-119.

沖村 幸・片平健太郎・国里愛彦・山下祐一 (2019). 統合失調症のコンピュータシミュレーション BRAIN and NERVE, 71 (7), 771-783.

伊藤理紗・矢島 涼・佐藤秀樹・樋上巧洋・松元智美・並木伸賢・国里愛彦・鈴木伸一 (2019). 恐怖の高まりを伴う安全確保行動がエクスポージャーの治療効果に与える影響 認知行動療法研究, 45 (1), 13-22.

柚取恵太・下斗米淳・国里愛彦 (2019). メタ認知における2側面—絶対的感度と相対的感度—行動科学, 58 (1), 27-38.

国里愛彦 (2020). 再現可能な心理学研究入門 専修人間科学論集心理学篇, 10, 21-33.

#### 学会発表

- Kunisato, Y. (2019). Relationship between metacognition of reversal learning and interoception, anxiety, and depression. The First European Congress on Clinical Psychology and Psychological Treatment of EACLIP November 1, Dresden, Germany.
- Kunisato, Y. & Sawa, K. (2019). Obsessive-compulsive tendency attenuates the recovery from overshadowing in associative learning. The 52nd Annual Meeting of the Society for Mathematical Psychology, July 20, Montreal, Canada.
- Hata, K., Ono, H., Ogawa, Y., Takeshita, W., Kunisato, Y., & Suzuki, S. (2019). Development and validation of the activity restriction scale for cancer patients (Sickness Impact Profile for Cancer Patients: SIP-C). The 9th World Congress of Behavioural and Cognitive Therapies, July 20, Berlin, Germany.

国里愛彦 (2020). 日心企画「再現可能な心理学研究入門」企画者 日本心理学会第84回大会 東京 WEB 開催 2020年11月1日

国里愛彦・竹林由武 (2020). チュートリアル・ワークショップ「今日からできる再現可能な論文執筆」日本心理学会第84回大会 東京 WEB 開催 2020年10月31日 参加登録サイト

国里愛彦 (2020). WS「臨床研究の方法論と倫理（臨床実践における倫理を含む）」日本認知・行動療学会第46回大会 広島 WEB 開催 2020年9月11日から9月30日

国里愛彦 (2020). 大会企画シンポジウム「抑うつ研究の最前線」話題提供 日本認知・行動療学会第46回大会 広島 WEB 開催 2020年9月11日から9月30日

国里愛彦 (2020). 自主企画シンポジウム「認知行動療法研究の新時代を切り開く研究法」話題提供 日本認知・行動療学会第46回大会 広島 WEB 開催 2020年9月11日から9月30日

国里愛彦 (2020). 日本心理学会若手の会企画シンポジウム「若手が聞きたい再現可能性問題の現状とこれから」指定討論 日本心理学会第84回大会 東京 WEB 開催 2020年9月9日

長谷川 晃・杣取 恵太・西村 春輝・服部 陽介・国里 愛彦 (2019). 衝動的行為と反すうが抑うつを強める過程：行動的衝動性に対する潜在変数アプローチを適用して 日本心理学会第83回大会 大阪（茨木）立命館大学大阪いばらきキャンパス 2019年9月11日

#### 社会的活動

日本認知・行動療学会 編集委員，教育・研修委員（～2020年6月）

日本認知・行動療学会 副編集委員長，教育・研修委員会副委員長（2020年7月～）

#### 小杉研究室（心理統計法）

心理統計法の研究は、心理学のどの領域でも必要とされるデータの収集、分析に関する技術や理論を研究するものです。お料理に例えるなら、フランス料理やイタリア料理などさまざまな専門領域に共通する、よく研がれた包丁を提供したり、低温調理器のような新しい調理法を開発したりすることを目的としています。

今年度はコロナの問題がありましたので、前期の間はずっとオンラインでゼミをやっておりました。PC を介してのコミュニケーションは双方の反応が読みにくいですから、新しく配属されたゼミ生にとっては研究室の雰囲気がわかりにくかったのではないかと思います。それでも例年通り、パソコンを使っての統計的分析の演習をこなしてきました。後期に入ると対面でゼミが再開しましたので、卒業研究もすぐさま実験・調査に取り掛かるなど、しっかりと各自の研究に對峙しながら楽しく学んでおります。

#### 諸活動

小杉考司 (2020). 対人関係の力動的変化のモデリング，行動計量学会第48回大会，2020.9.2. 早稲田大学

安藤正和・小杉考司 (2020). 値引きとポイント付与の統計モデリング－潜在クラスモデルを用いた傾向分類－，行動計量学会第48回大会，2020.9.2. 早稲田大学

#### 社会的活動

行動計量学会広報委員

#### 澤研究室（学習心理学）

私たちの研究室では、主にヒトや動物が経験によって行動を変えていく学習という現象について研究しています。2020年は、教員1名、研究員1名、大学院生4名（博士後期課程3名、修士課程1名）、学部生7名という構成でした。人間やラットを用いた迷信行動や習慣的行動の獲得に関する学習心理学的研究や、自己主体感のような主観的経験に関する動物研究、社交不安の再発といった臨床的問題の学習心理学的な基礎過程に関する研究を進めています。他大学や研究機関、企業との共同研究を積極的に推し進め、行動観察ソフトや力学的解析、ベイズモデリングなど新しい手法を導入しています。

#### 諸活動

##### 論文

Kurihara, A., & Sawa, K. (in press). The role of water deprivation on the hedonic response in conditioned flavor preference. *Bulletin of Senshu University School of Human Sciences: Psychology*.

Nihei, M., Hojo, D., Tanaka, T., & Sawa, K. (2020, November 19). A new model for recovery-from-extinction effects in Pavlovian conditioning and exposure therapy. <https://doi.org/10.31234/osf.io/8bjdp>

澤幸祐 (in press). 関数分析を通じた徹底的行動主義と方法論的行動主義の接続. 行動分析学研究

学会発表：

二瓶正登・北條大樹・澤幸祐 (2020). 古典的条件づけにおける学習過程の分析，日本行動計量学会第47回大会

二瓶正登・北條大樹・澤幸祐 (2020). 恐怖条件づけにおけるABA復元効果のベジアン統計モデリング，日本心理学会第84回大会（日本心理学会 特別優秀発表賞受賞）

二瓶正登・北條大樹・澤幸祐 (2020). 古典的条件づけにおける各種復元効果を説明可能な連合学習理論の提案と妥当性の検討，日本認知・行動療学会第46回大会

Ohkita, M. & Sawa, K. (2020). Does interaction with dogs (*Canis familiaris*) and/or cats (*Felis catus*) affect humans' perception of animals? The 80th Annual Meeting of The Japanese Society for Animal Psychology.

#### 下斗米研究室（社会心理学）

下斗米研では、伝統的に、人の社会的環境への適応過程を研究しています。令和2年度の室員構成は、教員1名、大学

院博士後期課程1名、学部生8名（4年7名、3年6名）でした。今年度も、（1）理性的で快適な人間関係や集団の形成条件を見いだすこと、（2）対人関係や集団成員の苦悩防止と自己発達・成長方策の探索、（3）差別や排斥、葛藤や紛争なく、集団や個人らしさを大切にしたい協調的社會を構築するための必要条件を見いだすこと、という3つの研究室伝統テーマのもと、調査や実験による研究活動が積極的に進められました。大学院生は、集団組織における異質者間融合とネットワークの拡大過程からの課題創出という集団力動について、理論的枠組みを精緻化させてきました。今年度の3年生は、各自の独自の視点をもって問題意識の醸成に努めて、実学的知見が期待できる方向づけができました。4年生は、極めてオリジナリティが認められる高次に優れた理論モデルの構築を進めていきました。いずれの室員も、従来の研究トピックスにはないテーマを設定して、その視点や取り組みは極めてチャレンジングでした。一緒に項目を作成し分析を行うなど、教員との協同研究として格闘・奮闘の日々でしたが、着実に成長していく姿はたくましく、内心とても喜んでいます。二人三脚のように教員と取り組んできたこと、また室員同士が合評会を中心に議論を深め、互いを高め合ってきたことに社会心理学研究室の伝統は今年度も変わらず受け継がれています。研究成果の一端は、Social Psychology Bulletin of Shimotomai Laboratory, Vol. 10, March, 2020において公開されています。今年度は、新歓コンパ、夏合宿、追いコン、そしてエンドレスの合評会などができませんでしたが、オンラインや対面にて交流を深めて、新たなゼミ形態で活動の効果を上げることができました。

#### 諸活動

##### 著作

Shimotomai, A. (2020). Parental social power, co-parenting, and child attachment: early to late Japanese adolescence transitions. *Current Psychology*, 39, 953-964.

仙取恵太・下斗米淳・国里愛彦（2019）．メタ認知における2側面—絶対的感度と相対的感度—行動科学, 58（1）, 27-38.

吉田光成・山田茉奈・下斗米淳（2020）．向けられた好意を拒絶することは苦しいことなのか？（1）：恋愛における“蛙化現象”の実存性と体験された困難さの定量的検討 日本教育心理学会第62回総会発表論文集, 256.

#### 社会活動

日本学術振興会専門委員

家庭裁判所調査官試験委員会委員（2次試験）

#### 高田研究室（深層心理学）

院生2名、学部学生10名のゼミとなりました。

前期はほとんどオンラインでしたので、学部3年生がどのようになるか心配でしたが、育英会のゼミ紹介があったりして3、4年合同で作業することも多少ありました。後期の対面によるゼミでようやくゼミらしい雰囲気となってしまし

た。後期のゼミ生によるゼミ紹介では、3年生がきちんとやってくれ、頼もしくなったなと思っていました。

夏合宿はCOVID-19で叶いませんでしたが、予定していた卒業生の飯田くんによる論文の書き方についての講義は前期にオンラインで行い、卒論をまとめるにあたってのイメージづくりができたと思います。

また、例年8月～10月の間に修士1年生5名が、大妻女子大学院、お茶の水女子大学院との合同で行っていた施行カウンセリングは、今年はオンラインで5回行いました。教員は新しく松嶋先生も加わっていただき、加藤先生、高田の3名で行いました。オンラインという形式は今後臨床の場でもありうる形なのでその練習にはなりましたが、その難しさも体験できたように思います。

#### 諸活動

高田夏子（2020）．遠藤周作の病跡学—『沈黙』を書かせたもの 専修人間科学論集心理学篇, 10（1）, 7-19.

#### 中沢研究室（知覚心理学）

この研究室では、外界からの感覚・知覚的情報を心がどのように処理しているのかについて、またその結果として生じる知覚像がどのような性質をもっているのかについてを調べる研究を行っています。これまでの学生さんによる研究は、「感じられる時間の歪み」「文字の読みやすさの要因」「フォントによる語の印象への影響」「言語の情動価と記憶」「偶発学習と記憶」「motion induced blindness（運動する刺激によって周辺視野の静止刺激が知覚されなくなる現象）」「視覚情報による嗅覚情報への干渉」「音楽の印象をつくる要因」などのテーマでなされてきました。

令和2年の今年度は新しい3年次生1名を迎え、総勢8名という構成でした。令和2年度の学生メンバーの研究のテーマは、「視覚と味覚の相互作用」「植物の存在によるパフォーマンスへの影響」「ラバーハンドイリュージョン」「パッケージの高級感」「色の典型性と偶発学習」などさまざまな方向に向いています。夏のゼミ合宿は、コロナ禍によって宿泊してというわけにはいきませんでした。オンラインでそれぞれの研究のテーマを持ち寄って2日間にわたって討論を行いました。その後には、オンライン飲み会で、言語論理だけではなく感覚知覚を研ぎ澄まして人間に関する情報取得を図ったりもしています。

#### 社会的活動

言語聴覚士国家試験試験委員

#### 松嶋研究室（犯罪心理学）

当研究室では、主に犯罪・非行心理学の研究をしております。令和2年度は、大学4年生4名と3年生7名の計11名が所属しており、ゼミ生はそれぞれ独自のテーマで研究を進めています。研究テーマは幅広いですが、最近ではSNSに関心を寄せる学生が多く、LINEの既読スルーにまつわる心理や、SNS上でだけ攻撃的になるパーソナリティなどについて

て研究を進めています。

コロナ禍で積極的な活動がしばらく時期にあり、当ゼミナールも前期中はオンラインでの開催でした。4年生は3年生と直接対面する機会もないままオンラインでのゼミナールが続いたので、少し寂しい面もありましたが、ゼミの運営にSlackを取り入れ、相互交流を図れる仕組み作りを行いました。犯罪・非行心理学を活かした就職先は公務員であることが多いためか、当ゼミは公務員志望の学生が多く、slackを利用して先輩・後輩間で公務員試験対策情報のやり取りなどを行っているようです。また、将来の心理臨床に活かすため、神奈川県警の少年相談・保護センターの委嘱を受け、2名の学生がボランティアとして、思春期の少年・少女の支援を行っています。

#### 諸活動

松嶋祐子 (2020). 犯罪・非行領域における心理臨床の特性  
専修大学人文科学研究月報, 306, 25-39.

松嶋祐子 (2020). Google Classroom を活用したオンデマンド型授業の実践 (印刷中) 専修大学情報科学研究所特集号

松嶋祐子 (2020). 情状鑑定について 専修人文論集107号

松嶋祐子 (2020). 外国語のススメ【第101回】英語を使うと見えてくるもの ニュース専修5月号, 2.

#### 社会的活動

専修大学情報科学研究所 オンライン授業セミナー講師  
「Google Classroom を活用したオンデマンド型授業の実践」(2020年8月)

#### 吉田研究室 (発達臨床心理学)

令和2年度の構成メンバーは、大学院1年生2名、2年生2名、学部5年生1名、4年生3名、3年生4名です。大学院2年生は、修論研究を進めています。研究テーマのキーワードは、過剰適応、育児不安です。4年生5年生も、卒論研究を進めています。研究テーマのキーワードは、レジリエンス、インターネット依存傾向、ジェンダー・タイプです。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、修士論文、卒業論文の調査が思うように進まず、研究の進展が危ぶまれましたが、なんとか研究が進み、論文の提出が近づいています。大学院1年生と学部3年生もほぼ研究テーマが決まってきており、研究のまとめに向けて、分析を進めているところです。よい研究がまとまることを期待しております。今年は夏のゼミ合宿も、歓迎会もできませんでしたが、その分オンラインのツールを使って、交流を深めました。

#### 諸活動

瀧口俊子, 吉川慎理, 繁多進, 近藤清美, 上地雄一郎, 吉田弘道, 青木紀久代, 亀口憲治, 菅野信夫, 高田晃, 赤橋幸市, 馬場穂子, 平野直己, 深津千賀子 (2020). 大会企画シンポジウム (子育て支援合同委員会共催), 「アタッチメント」再考—現代日本の心理臨床に活かす—, 日本心理臨床学会第39回大会, 11, 20-26.

#### 社会的活動

日本小児精神神経学会代議員

日本小児保健協会小児科・小児歯科保健検討委員会委員

日本臨床心理士資格認定協会・日本心理臨床学会・日本臨床心理会による臨床心理士子育て支援合同委員会委員

川崎市子ども・子育て会議委員

公益財団法人成長科学協会心の発達研究委員

#### Ⅲ. 卒業論文題目

津田 奈生子 ゲーム課題への没頭を高める要因の検討

山崎 侑恭 SNS の利用動機と承認欲求、及び自己開示動機に関する研究

村松 夏帆 自己へのポジティブなフォーカシングが志向性および動機づけに及ぼす効果

梶原 陸美 甘い香りが向社会性・恋愛意欲・架空のパートナー評価に影響を及ぼすのか？

田中 嘉彦 視線は特別なのか？空間ストループ課題による検討

小川 菜桜子 L-AP4 がカエルの網膜神経節細胞受容野に与える影響—逆相関法による測定—

ギ ウ ベトナム人犯罪の急増を規定する要因

平山 朋実 自伝的記憶の想起による自己肯定感の変化

青木 涼香 恋愛ソングの計量的分析—若者は失恋ソングを聴かなくなったか—

粟生 七海 LINE の既読を気にしやすい人の特徴とは

垣本 ななみ 大学生における仮想的有能感とインターネット等での攻撃行動の関連の検討 (利用する SNS とその頻度をふまえて)

山口 美羽 性差が殺人事件における犯人の行動パターンにおよぼす影響

増田 大志 乳児の泣き声の認知に与える認知的負荷・制御困難性の影響

神薗 愛奈 音楽聴取における感動体験

藤 美月 大学生のスポーツ活動によるストレス反応の差異と普段の生活や自身への影響の関連

宮下 華奈 大学生によるロボットのイメージと背景要因

齋藤 裕希子 心理学的ネットワーク解析を用いた内受容感覚及び不安や抑うつとの関係の検討

長谷川 舞 人間はコミュニティの中で自己をどのように作り出しているのか—多層的対人関係による総体としての自己生成・変容の検討—

田中 桃子 身体所有感の拡張に及ぼす拡張対象の形状および布置角度の影響—ラバーハンドイリュージョンによる検討—

佐藤 朝香 カエル網膜神経節細胞における持続的なオフ応答の分析—光刺激の条件による時間的特性の検討—

柿崎 菜月 他者情報提示に伴う社会的比較が幼児の抑制機能に与える影響

高橋 奈々美 日本の殺人事件における殺害動機と殺害方法の特徴

関根 さくら 自室のインテリア空間の好みと性格特性の関

連 ―好ましき評価項目による評価構造図の作成―  
 鈴木 美桜 大学卓球選手の実力の発揮について  
 牛嶋 ひろ美 音声の高さが文の想起に与える影響： 識別性効果における差動処理と特権的検索の比較  
 酒井 里紗 対人選択過程の現象学検討： 波長が合うとは何か  
 榎本 吏那 ストレス喚起刺激が目撃者の有効視野に及ぼす影響  
 ウ ジヒ 自己複雑性と抑うつとの関連についてのメタ分析 ―文化差の検討―  
 カン テンキョウ 友人関係満足度と公的自己意識が自尊感情に及ぼす影響 ―日本人大学生と在日中国人留学生との比較―  
 渋谷 勇樹 過去のネガティブな出来事の反復思考によるストレス反応の生起モデル  
 川口 絵奈 大学生における「居場所」の心理的機能が対人ストレスコーピングに及ぼす影響  
 毛塚 典 推論開始時の処理は変更可能か？ ―並列処理仮説に基づく検討―  
 山下 星奈 少女マンガから見るジェンダー ―時代と共に移り変わる女性像―  
 藤森 健也 日常場面における展望的記憶と遂行機能の関連について  
 田口 羽留 幼児の対人葛藤場面の解決方略 ―場面に関与する人数の違いが方略に与える影響の検討―  
 野原 彩乃 宮崎駿の病跡学 ―「風立ちぬ」に見る人生の統合過程―  
 酒井 珠希 両親の不和が青年期の交際関係に与える影響  
 西谷 摩耶 中学生における教師への信頼感が学校適応感に与える影響について  
 澁谷 暁 順応水準の違いが網膜神経節細胞の時空間受容野に与える影響 ―逆相関法による検討―  
 小牧 正岳 画像の偶発記憶における色の典型性と誘目性の影響  
 旗野 遥香 本邦におけるノスタルジアな感情と機能的特徴  
 徳間 鈴奈 外集団理解における原因帰属と社会的アイデンティティの維持の検討 ―異質さを乗り越えた融和に向けて―  
 茅島 由佳 ジェンダー・タイプと大学適応感及び、創造的人格との関連についての研究  
 波多野 理奈 発達障がいリテラシー向上要因の検討 ―関連講義受講経験と情報入手の観点から―  
 田中 遼太 社交不安に対する認知バイアス修正の効果に対するメタ分析： 文化差に注目して  
 小野 拓也 第一印象が変わるということは何を意味しているのか ―第一印象の再体制化時の心的過程および自己像の変容の検討―  
 宮崎 華蓮 自尊心と被受容感のバランスと感情表出との間にある関連について  
 林 亜美 大学生におけるセクシュアル・マイノリティに対する意識と態度について ―大学形態別の比較検討―

菊池 太賀 ウシガエルにおける内因性光感受性網膜神経節細胞の検討 ―赤色光を用いた応答特性の検証―  
 真島 宏明 オンライン調査における回答者の Satisfice 行動  
 鈴木 いづみ お世辞伝達における透明性錯覚および承認欲求との関連の検討  
 塩家 未彩 手遊びが幼児の実行機能に与える影響  
 寺田 慎之介 三人での分配行動における公正観の影響 ―最後通牒ゲームを用いて―  
 坂井 恵実 赤色系の色から感じられる味覚イメージは好き嫌いで違うのか  
 大谷 将太郎 野球において人は流れを感じるのか？ ―通説・ジンクスを用いた検討―  
 伊藤 安里葉 観葉植物が VDT 作業による疲労感を緩和させる可能性  
 五十嵐 大知 心理学的ネットワーク解析を用いた社交不安症と対人恐怖症の比較  
 小笠原 詩織 同種他個体間および他種他個体間でのまばたきの同期 ―ヒトとイヌを対象とした検討―  
 廣瀬 羽牙 自己ペース走の実施が心身に与える影響についての検討  
 深澤 紀乃 口紅のパッケージの色による商品イメージと購買意欲への影響  
 後藤 日奈子 社会的排除事態における自動性と自己抑制との揺らぎについての検討  
 永岡 顕一 L-AP 4 を用いたウシガエル網膜における内因性光感受性神経節細胞の検討  
 牧田 華林 両親間葛藤の認知とレジリエンス、抑うつ、及び攻撃性の関連

#### IV. 優秀卒業論文

田中 嘉彦 HP29-0003H (指導教員：大久保街重)  
 渋谷 勇樹 HP29-0034E (指導教員：下斗米淳)  
 藤森 健也 HP29-0038H (指導教員：岡村陽子)  
 澁谷 暁 HP29-0044B (指導教員：石金浩史)  
 後藤 日奈子 HP29-0073B (指導教員：下斗米淳)

#### V. 修士論文題目

安 明熙 日韓比較を通じた親からの期待認知が子どもの強迫傾向に及ぼす影響―親孝行に関する媒介効果の検討― (岡村・大久保)  
 小澤 千尋 遂行機能と抑うつ傾向の関連について (岡村・石金)  
 寺沢 勇紀 時隔及び時間スケジュールの経験順序がオペラント行動に与える影響 (澤・小杉)  
 市原 拓海 Cognitive Refocusing Treatment for Insomnia (CRT-I) についての検討 ―複数の代替志向の使い分けおよび経時的な効果に注目して― (加藤・小杉)  
 為野 順子 母親の育児不安と母性意識、特性的自己効力感、情報活用力との関連 (吉田・下斗米)  
 高橋 彩奈 過剰適応に対する他者スキーマとアタッチメントの影響 (吉田・石金)

奥村 康平 大学生における自殺の対人関係理論と死生観との関連について（加藤・大久保）

広瀬 友彩 正・負の理想—現実自己のズレが自尊感情に与える影響を緩和する要因の検討—セルフ・コンパッションに着目して—（高田・中沢）

#### Ⅵ. 修士論文研究優秀ポスター発表

最優秀賞 市原 拓海 ML19-7004A

（主指導：加藤佑昌，副指導：小杉考司）

優 秀 賞 寺沢 勇紀 ML19-7003B

（主指導：澤幸祐，副指導：小杉考司）

#### Ⅶ. 研究室専任教員異動

長田洋和教授が令和元年度末をもって退職されました。研究室一同心よりお礼を申し上げますとともに、今後のご活躍を祈念いたします。また、高澤知子特任教授が令和2年度より着任されました。次頁に、これまでの研究室専任構成員の在職歴を表に示します。

## 専修大学心理学研究室専任構成員の在職歴

開設・改組	年度	人格	学習	生理	知覚	発達	社会	臨床	認知	発達臨床	臨床 心理査定	犯罪	臨床 リハビリテーション	障害（児）	心理統計	特任教授	助教	実習助手	他学部専任教員																	
文学部人文学科 心理学コース	S42 1967	重松 毅	金城 辰夫	河内 十郎	中谷 和夫	山上 精次					藤岡新治[商]		森 武夫[法]					野口真知子	細山藤代子[経済] 中野繁喜[経済]																	
	S43 1968																																			
	S44 1969																																			
	S45 1970																																			
	S46 1971																																			
	S47 1972																																			
	S48 1973																																			
	S49 1974																																			
	S50 1975																																			
	S51 1976																																			
大学院文学研究科 心理学専攻修士課程	S52 1977	(在外)																																		
	S53 1978																																			
	S54 1979																																			
	S55 1980																																			
	S56 1981																																			
	S57 1982																																			
	S58 1983																																			
	S59 1984																																			
	S60 1985																																			
	S61 1986																																			
大学院文学研究科 心理学専攻博士課程	S62 1987	↓																																		
	S63 1988																																			
	H 1 1989 (定年名誉教授)																																			
	H 2 1990 岡村達也																																			
	H 3 1991																																			
	H 4 1992																																			
	H 5 1993																																			
	H 6 1994																																			
	H 7 1995																																			
	H 8 1996																																			
文学部心理学科	H 9 1997	龍 吉祐			中沢 仁																															
	H 10 1998																																			
	H 11 1999																																			
	H 12 2000																																			
	H 13 2001																																			
	H 14 2002																																			
	H 15 2003																																			
	H 16 2004																																			
	H 17 2005																																			
	H 18 2006																																			
人間科学部心理学科	H 19 2007	(在外)																																		